



趣味は農業、 楽しみながら続けていきたい

就農したきっかけは

祖父の代から水稲栽培をしていたので、車関係の仕事をするかたわら繁忙期には家業を手伝っていました。小さい頃には、よく稲刈り後の田んぼで走り回って遊んでいました。30代の頃には、転職を考え始め、実家が農家だったこともあり農業に従事することに決めました。とは言っても、この頃は人がやっていないことをしようとしたい「シイタケ」の栽培を始めました。

本格的に栽培を始めて

最初は、水稲栽培とシイタケ栽培をしていましたが、高齢化などによって知り合いから田んぼの管理を頼まれるようになり、徐々にその面積も増えていきました。そのうち水稲で手いっぱいになり、6年ほどでシイタケ栽培はやめてしまいました。

大変だったことは

平成22年に、全国的にヒノヒカリの高温障害が発生した時には、我が家も例外なく収穫が上がらず、品質の低下がありました。この出来事でアケボノへの品種替えを決定しました。

また、平成25年に岡山県下でウンカが大発生した時には、品種に関係なく被害が拡大して、例年の6割ほどの収量になりました。

良かったことは

なんとと言っても「自由」。農作業の合間に自分で自由に時間を使える事です。そのかわりに、楽をしていると自分に返ってくる。何



事も自分次第ですかね。

栽培がひと段落する時期には、たまには家族で出かけることもありませんが、ほとんどは家にいて、農機具のメンテナンスや農業の事を考えています。

根っからこの仕事が好きなんです。

今後は

体が動く間は、農業を続けていきたいと思っています。地区の高齢化が進む中、新規就農者はほとんどいないので、近くであれば、出来る限り力になれたらと思います。

吉備路水田農業大規模経営体ネットワーク

経営体数：43経営体
 個別経営体部会長：光畑 豊さん
 栽培品種：水稲（あきたこまち、きぬむすめ、ヒノヒカリ、にこまる、朝日、アケボノ等）
 主な出荷先：JA岡山西

平成25年に集落営農組織と個別経営体で組織し、研修会などの情報共有を活動の主体としている。活動を通じて会員相互の交流が深まり、作業受託や新規作物の導入などの新たな取り組みが広がっている。



【吉備路水田農業大規模経営体ネットワーク】

光畑 豊さん

みつはた ゆたか / 70歳
 就農して34年 / 水稲10ha(アケボノを主に、あきたこまち、恋の予感、あきだわら)を
 経営。